

第四次瑞穂町子ども読書活動推進計画（素案）に対する意見等結果

- ・意見等募集期間 令和7年1月14日（火）～1月31日（金）
- ・意見等提出者数 1人（LoGoフォームによる提出）

No.	意見等	町の見解、回答
1	P9 書店という表記 町内に本屋さんがない？ →図書館や地域図書館などを利用し・・・	家庭の取組であること、また近隣に利用できる書店があることから、選択肢の一つとして記述しています。ただし、全国的に書店が減少していることから、今後も社会情勢を鑑みながら検討していきます。
	●元狭山ふるさと思い出館の図書室の雰囲気が好きです。 町民でも武蔵野地区の住民などは、知らない人が多いことかと。本のある空間に親しみを持たせる・・・このような表記がありますが、このためには、全年齢を対象とし、思い出館にはノスタルジーあふれる最適な環境が整っていると思います。計画書に写真などが入れられるならば、ぜひ、思い出館の桜の時期の写真などを入れると良いですね。ただ、施設があまり活用されていないことがもったいなく、残念でなりませんが・・・ もちろん、本店図書館の雰囲気も素晴らしいので、くつろぎながら本を読んでいるような雰囲気が分かる写真などもよいかもしれません。	認知度が十分とは言えない地域図書室もあることから、図書館と地域図書室を知っていただくため、場所や蔵書数等の紹介を資料として追加します。

●地域活動と同じく、読書という活動にいかに関心を持ってもらうか。この点がとても大切かと思います。現在、町では、調べる学習コンクールなどが行われ、子どもたちは興味を持ったことに対し、図書館を活用した学習をしているようですが、その情報が町民に還元、共有されていないかと。 ホームページでは受賞者などの発表はされていますが、どのようなことをどのように調べ、そしてまとめたのか？ このあたりの発表内容も、ホームページなどでわかるようにしてあげられれば、受賞者のやる気も高まるのかと考えます。 入賞者の水準も上がっている・・・ということなので、ぜひそのあたりの変化も見えるようにしていただければよいかと。 計画上での考え方も、「コンクールをやります。」としか記載がないことが寂しいです。コンクールを実施し、入賞作品を発表することで、図書館を利活用した学習の素晴らしさをアピールしていく・・・とか？あると良いのかもかもしれません。	瑞穂町図書館を使った調べる学習コンクールの入賞作品のうち、最優秀賞と優秀賞は図書館でレプリカを展示しています。作品をホームページで公表するためには、著作権等の処理が必要であり、難しいと考えています。しかしながらコンクールの成果の活用については、読書活動の推進や学習意欲の向上にもつながることから、引き続き研究を進めます。
●システムの面もありますが、今後の課題として、司書さんによる書籍案内も大切ですが、A I（人工知能）を活用した良書案内ということも今後はできることかと思います。 計画は5年ということになりますので、こうなると良いな・・・的なことでの意見です。 図書館では基本的に「読みたい本」を探しに行くか、または、ふらっと行ったときに手に取った本を読んでみるか、どちらかという、図書館は「受け身的」な場所になっていることかと考えます。 積極的にこんな本はいかがですかと、プッシュ通知的に押し売りすることも可能かと思います。 図書館カードの情報をもとに、年齢などから、「このような本はいかがですか、	A I（人工知能）をはじめとしたデジタル技術については日進月歩の分野であり、図書館システムにも徐々に取り入れられています。導入に当たっては多額の開発費用がかかることから、まずは現在作成している良書案内の周知・活用を図りながら、効果の高い技術の導入を研究します。

	人気ですよ」とか貸出履歴から、「次はこのような本、いかがですか？」まるで、アマゾンの閲覧履歴からの広告が出てくるような形で、町の蔵書から書籍推薦リストを作成する・・・A I の活用で、このようなことは簡単にできるようになります。 図書館の活用、利用率の向上を図る上でも、今後、このようなシステムがあると良いことかと思いますがいかがでしょうか。	
--	---	--